

## 機関リポジトリと 無料電子ジャーナル検索

リポジトリの活用に向けて

## I 機関リポジトリのABC

## リポジトリとは

- ▶ 学術研究成果をインターネット上に公開する電子的なアーカイブ、保存庫のことを言う
- ▶ **機関リポジトリ** 大学などのリポジトリ
- ▶ **主題別リポジトリ** 専門分野別のリポジトリ
  - [arXiv.org](http://arXiv.org) (物理学他) [Cogprints](http://Cogprints) (認知科学)
  - [RePEc](http://RePEc) (経済学) [SSRN eLibrary](http://SSRN_eLibrary) (社会科学)
  - [ERIC](http://ERIC) (教育学) [ARRT SPACE](http://ARRT_SPACE) (教育学)
  - [PubMed Central](http://PubMed_Central) (医学、生命科学)
  - [Bioline International](http://Bioline_International) (生命科学)

## 機関リポジトリ2つの源流

- ▶ 1. 電子アーカイブシステムを相互に運用し **オープンアクセス\***を進めてゆこうという運動の流れから
- ▶ 2. 従来の図書館での保存機能を拡張して、電子的資料にも適用しようという考え方の流れから

## \* オープンアクセス

- ▶ 学術情報(学術雑誌に掲載された論文を)をインターネットを通じて無料で公開すること。学術雑誌の高騰に対して1990年代後半から広まり始めた理念および運動である。
- ▶ 手段としては査読付きの学術雑誌を無料で公開する **オープンアクセス・ジャーナル**の場合と、査読を行わず蓄積する **リポジトリ**(オープンアクセス・アーカイブ)での公開(セルフアーカイブ)があげられる。

## 機関リポジトリのコンテンツは 具体的にどんなものか？

- ・ 学術雑誌掲載論文
- ・ 紀要論文
- ・ 学内刊行物論文
- ・ 科研費報告書
- ・ 学会発表資料
- ・ 学位論文
- ・ 社会連携事業成果
- ・ 教育資料

### 大学における機関リポジトリの存在意義！

- ▶ 大学の研究教育成果に対する視認性とアクセシビリティの向上
- ▶ 社会に対する大学の研究教育活動の説明責任アカウントビリティの保証
- ▶ 大学で生み出された知的生産物の長期保存
- ▶ 商業出版者が独占する現行の学術出版システムに対する代替システム  
⇒オープンアクセス化

### リポジトリ論文の検索および利用

- ・ コンテンツには**メタデータ**が付与されている
- ・ **メタデータとは?** = 「データ」の「データ」  
電子情報の「目録」情報
- ・ メタデータの規則(ルール)がある  
Dublin Core
- ・ メタデータを採取(harvest)するプロトコルがある  
OAI-PMH

### リポジトリのリンク集と検索サイト

- ・ **ROAR** (Registry of Open Access Repositories)  
(英サウサンプトン大)  
<http://roar.eprints.org/>
- ・ **OpenDOAR** (Directory of Open Access Repositories)  
(英ノッティンガム大)  
<http://www.opendoar.org>
- ・ **OAIster** 世界のリポジトリの横断検索(米ミシガン大)  
<http://www.oaister.org/>
- ・ **JAIRO** 日本のリポジトリ横断検索システム  
(国立情報学研究所)  
<http://jairo.nii.ac.jp/>

### 検索 (サーチ) エンジンでの検索

- ・ 無料であり公開されているところから 検索エンジンにコンテンツがとられていることが多い。←まず検索エンジンで論文を検索してみるとヒットすることが多いのはこのため。
- ・ 学術論文に特化した検索エンジンなどは、リポジトリを明示的に採録対象としているので、利用価値が多い。

[Scirus](#) (エルゼビア社のエンジン、SDコンテンツ含む)  
[Google-scholar](#)

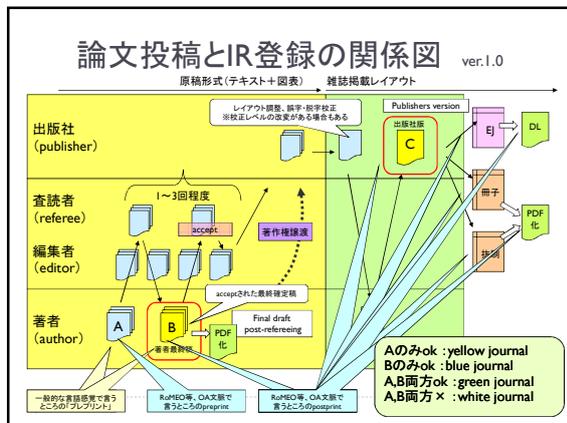
### リポジトリへの登録 (セルフアーカイブ) について

- ▶ リポジトリへの登録(セルフアーカイブ)には原則出版社(学会)の許諾が必要と考えられる。
- ▶ 欧米の学術誌の80パーセント以上が掲載論文を許諾手続きなしにセルフアーカイブすることを認めている。
- ▶ 出版社が通常アーカイブ対象と考えているのは、雑誌掲載論文そのままではなく、著者の手元にある最終原稿である。
- ▶ 著作権の許諾を調べるサイト。  
(1) SHERPA/RoMEO - Publisher copyright policies & self-archiving (<http://www.sherpa.ac.uk/romeo/>)  
(2) 学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ) (<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>)

### 著作権許諾ポリシーの違い

	SHERPA/RoMEO	学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ)
<b>Green</b>	can archive pre-print and post-print	査読前・査読後のどちらでもよい
<b>Blue</b>	can archive post-print (ie final draft post-refereeing)	査読後の論文のみ認める
<b>Yellow</b>	can archive pre-print (ie pre-refereeing)	査読前の論文のみ認める
<b>White</b>	archiving not formally supported	リポジトリへの保存を認めていない
<b>Grey</b>	?	検討中・非公開・無回答・その他

注) pre-printとは査読前の原稿をさす。査読後の「原稿」もpost-printと呼ぶ。



リポジトリは学術成果のショーウィンドウ！！

▼  
本学リポジトリ  
「ROSEリポジトリいばらき」  
のコンテンツ充実は

▼  
茨大の情報発信力の強化  
茨城大学の認知アップ  
につながります！

論文の登録にご協力ください！

## II 無料電子ジャーナルの検索

### 無料電子ジャーナルが増加している

- 論文検索サイトと提供サイトの近接・同一化  
文献情報データベース⇒リンク機能の充実
- オープンアクセスジャーナル提供の充実
- 機関リポジトリの充実
- セルフ・アーカイブ義務化の動向  
助成金をもらったものはリポジトリ登録が義務
- 検索エンジンの動向 (リポジトリ対象、論文単位での検索提供)

### 無料電子ジャーナルの種類

- (1) 出版社のものだが試行的に一部無料にするもの。
- (2) 学会誌で全部または一定期間過ぎたものを無料にするもの。
- (3) 最初から無料で電子的に公開された出版物。  
(オープンアクセスジャーナルや大学紀要)
- (4) 機関リポジトリに登録掲載された論文。
- (5) 著者が自分の論文実績などを研究室のHPなどで公開しているもの。

**これからはインターネットで直接論文データを手に入るかどうかを調べる！ことが大事**

- ▶ ILL(他大学等にコピーを依頼する)前に確認しておく！
- ▶ 1.本学で契約している電子ジャーナル(学生教職員は費用がかからない)にその論文が含まれていないか。  
⇒図書館の電子ジャーナル頁を調べる。
- ▶ 2.無料で論文データを手に入る可能性が増えている。  
⇒以下の検索ステップを試してみる。

**1.フリー文献にリンク機能がある雑誌記事索引、文献情報DBなどで検索する。**

- ▶ 国内文献で検索する時、CiNii(国立情報学研究所)で検索する。  
(NII-ELS,NII-研究紀要J-STAGE,Journal@rchive,機関リポジトリにリンク)
- ▶ 生物 - 医学系文献はPubMed(米国国立生物工学情報センターNCBI)で検索する。  
(LinkOut参照。自体PubMed Centralでフリーアーカイブを運営している。)

**2.論文名(論文タイトル)で調べる。**

検索エンジン(Google, Google Scholar, Scirus等)を使い論文名(論文タイトル)でフレーズ検索する

- ▶ リポジトリに採録された論文などはこの方法で検索されることが多い。
- ▶ フレーズ検索は検索エンジンのオプション検索から入る。



**3. 掲載雑誌から調べる。(雑誌名、巻号が分かっている時)**

- 1) 検索エンジンを雑誌名で検索するか、或いは無料電子ジャーナルリンク集などから雑誌のHPサイトを探す。
- 2) 雑誌のHPサイトに行き、その中でバックナンバーを探し出す。

▶ [オープンアクセスジャーナルリンク集](#)(国立国会図書館)

#### 4. 著者からたどる。(著者が分かっている時)

サーチエンジンで著者の略歴等を検索して、所属の機関リポジトリに論文があるかどうか調べることができる。

- ▶ [ReaD\[研究開発支援総合ディレクトリ\(科学技術振興機構\)研究者情報\]](#)

#### 参考サイト

- ▶ [リサーチナビ\(国立国会図書館HP\):調べ方案内](#)
- ▶ [無料電子雑誌論文の見つけ方](#)  
[http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-400134.php](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400134.php)
- ▶ [オープンアクセスジャーナルリンク集](#)  
[http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-400309.php](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400309.php)
- ▶ [著者所属機関の機関リポジトリで灰色文献を探す](#)  
[http://rnavi.ndl.go.jp/research\\_guide/entry/theme-honbun-400156.php](http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-400156.php)